

「吟もて笑顔のしわを！」

「何れの処よりか秋風至る」(秋風の引・劉禹錫) 猛暑の夏もどうやら爽涼の秋にバトンを譲ろうとしています。

至るところを襲った今年の豪雨災害には、その災害に心からお見舞い申し上げるとともに、自然の猛威に“備えあれかし”と痛感する次第です。

六月の「全国吟道大会」は当会からも二百二十名の参加で「祖宗範 横山岳精 生誕一〇〇年・創流 四〇周年記念」に相応しい内容であり、参加者



平成 29 年 8 月
千代田岳精会弘報

会長 鈴木 精成

一同感動を新たにしましたものでした。当日ご苦勞いただいた大会役員(連絡・舞台・司会)の皆様には改めて深くお礼申し上げます。

今年も既に八か月を経過したことになりますが、教場での定例の研修の活発化はまことに素晴らしいものがあります。加えて、年九回の予定で実施されてきた「層別研修会」があと一回「有伝層研修会―二」を残すのみとなりました。これらの各研修会への該当の方々の出席状況は極めて良好かつ熱心さに溢れており、講師担当の副会長諸先生にも、熱意一杯の研修を行ってもらってきました。終了後、参加者それぞれからもたらされる質問も熱心なものです。

”研修の千代田“のもう一つの強みである「自主研修会」も参加者の増加、参加層の幅の拡がりが目立っており、頼もしい限りです。教場の活動では得られぬ会員相互の”横断的“な交流の場が拡大していると云えます。

私は、「千代田の教場とは」として毎月の幹事会にその折々の感じたまま、知り得たことなどを一言述べさせて頂いてきております。「創立三十周年」の記念の年・昨年に記したことを整理してみました、その一部です。

★「現状」に安心しない、「現状」を心配しない(三月)

教場の現状に安心したり、心配したりだが、失望は禁物です。

★「我が教場のこれからをみんな考え、協力して前進に取り組んでいきたい」(九月)
前へ前へ！ みんなの協力で作り上げるものとの思いを強くしました。

★「新しい会員さんの”積極さ“が益々高くなっている」(六月)
新人会員さんの紹介による入会が増えてきました。

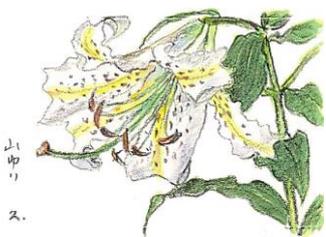
★「千代田の吟友は、吟が好きだ、漢詩が好きだ、吟を通じての交流を大事にしている」(十一月)
「吟じながらウォーキング」は最高！

★「吟をやっています」に、医師の「それはいい！」

★「こんな話」(十一月)
会員Mさんの吟練習の声を聴いて、近所の方から「詩吟をやってみたい」の問い合わせ。

来年の「鹿児島吟行会」への参加が千代田から四十四名です。これからの参加名乗りを含めて大いに盛り上げましょう。

「ふやすなら微笑のしわを」百五歳の天寿を全うされた亡き日野原重明先生の言葉が胸に刻まれます。吟もて笑顔のしわを“というところでしょうか。



山ゆり 星野久風(清水)

慶祝 横山岳精 生誕一〇〇年

岳精流 創流四〇周年記念

全国吟道大会開催

昨年末、百寿目前の横山岳精祖宗範を思いがけず送る事となり、新しい歩みを始めた岳精流として最初の全国大会が六月十一日(日)川崎市教育文化会館に全国から千四百名のご来賓、賛助出演の舞踊団、会員が集い開催された。

永い間、大会が開かれてきた文化会館の会場は設備の老朽化が進み、使い難さもあつて富士見通りをはさみ建築が進められている新会館に移転することとなり、今年が最後の大会となります。

今年「横山岳精後援会長」から「岳精流日本吟院後援会長」に就任された加藤丈夫国立公文書館館長のご挨拶の中で、論語の「古き物事を究めて、新しい知識や見解を得ること」を取り上げて「これまででの伝統や繋がりを大切にしながら、新しい物へ取組む」という吟界の現状、岳精流への指針を示されたと有難く受け取らせていただきました。今大会の特色は、榊原舞踊団の特別番組「慶祝横山岳精生誕一〇〇年を記念して」の演舞でした。舞台袖の衣裳替えスペースでは舞台から駆け戻った演者の衣裳替えが戦場のような中で行われ、汗も拭わず、すぐに舞台へ向かう気迫に圧倒されました。

毎年、開会から全てを見守って下さった家元の姿が見えない初めての大会となりましたが、天国

の祖宗範に届けようと企画から運営に携わった役員全員がこれまで以上の取り組みで進めました。千代田からは二百二十名の参加申し込みでした。また、今年も千代田の担当は連絡係の他、舞台、司会、式典、記録に役員として裏から大会を支え、遠来の会員さん方を暖かく迎えらるよう取り組みました。毎年、昼食時間も削り、舞台にも立たず頑張られた皆さんのご苦勞、有難く感謝しています。

ちなみに、新しい会館は正式名称が未決定ですが、来年の大会は六月の土・日曜は使用できず四日(木)と平日開催の予定となっています。

初参加の皆さんに

大会の感想をいただきました。



全国吟道大会初参加に寄せて

神田用賀 坂部 英子

私は昨年十一月に入会しましたので、何でも初めての事ばかりです。当然今回の「全国吟道大会」も初参加となりました。全国大会参加と言われてもピンと来るものがある筈もなく、只「どうにかなるだろう」と本当に軽く考えていました。

大会当日、プログラムの出番は三番ですから、

会場に着くなり舞台へ上がる整列準備に入りました。楽屋の外から内、袖へと進み、あれよあれよという間に壇上後列に控えていました。舞台後方から会場を見渡すと一階から二階まで多くの人が身を乗り出すように熱心に見入っている姿が目に入って来ました。その時になって私は日常の忙しさを言い訳にして勉強不足のままにしていたことを後悔しました。会場の人々の熱い視線が注がれる舞台では、手元に小さく隠し持っていたカードを見るなんて事はとても許されない状況でした。千代田岳精会女子の皆様にご導かれてどうか吟じ終えた次第です。

打ちひしがれて席に戻り、全国から参加された人々の舞台に見入っていました。堂々と舞台上に立ち、瞳を大きく開き真直ぐ通る声でまさしく「吟詠」です。その姿勢に心から感動しました。

反省ばかりの大会初参加となりましたが、宗家信条「真善美」に思いを新たに、一行の詩に感動する心で「一吟入魂」を今後の心構えとし、この初心を「忘るべからず」と申し上げて私の「全国吟道大会に寄せて」を終わります。用賀教場の先生をはじめ諸先輩吟友の皆様、今後ともご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

高いレベルの吟詠に感動

丸の内支部 岡本 英勝

詩吟を始めて丸一年、全国吟道大会に参加しました。今年は「横山岳精生誕一〇〇年 創流四〇周年」の記念大会で、日本全国北は北海道から南は

沖繩迄の岳精流吟友、約千四百名が川崎に参集しました。

大会はプログラムに従い、第一部各会・支部合吟から始まりました。私の属する千代田岳精会男子合吟は一部の最終組約百四十名の大合吟です。

全員での練習が無いままの本番で声が揃うか少し不安もありましたが、教場毎に練習を積んでいるので余計な心配をしない事にしました。そろそろ出番が近づいたので舞台で並ぶ位置の順を決めることになり、新人は最後列辺りと思っていたのが意に反して二列目の真中、鈴木会長の後ろに決まりました。一瞬緊張が走ったが日頃の教え通り口を大きく開き大声で吟じる事が出来ました。

合吟の終了後、移動に時間を要し幼少年吟は聴き損じましたが最後に諸先生の素晴らしい吟詠を存分に満喫させて頂きました。その中でも三河岳精会女子合吟と幼少年のコンクール優勝吟には大変感銘を受けました。女子合吟の糸乱れぬ発声の美しさに、さすが優勝吟だと納得、拍手拍手でした。

もう一つは幼少年吟です。今、世間で注目を浴びているのが若い世代の活躍です。将棋の藤井四段、卓球の張本選手等々です。日本中に元気を与えています。詩吟でも若い世代の活躍があつてもと興味を持っていましたが、運良くそれもコンクール優勝吟を聴く機会を得ました。広いホールに澄み切った声量のある高音が響き渡った。よくもこの様ないい声が出るものだと感銘すると同時に羨望すら覚えました。正に彼等は岳精流の金の卵です。益々精進されて、これからも素晴らしい吟

を多く聴かせて下さい。

全国吟道大会に参加して

新陵 西川 清悟

詩吟を始めてやっと一年というところで、初めて大会に参加させて頂きました。沢山の観客を前に、合吟での自身の登壇には心浮き立つ感情を覚えしました。先生方の独吟や構成吟等での素晴らしい吟詠を拝聴しつつ、教本片手の録音取りにも力が入りました。

この大会を通じて、家元が遺された大きな業績が次の世代にしっかりと受け継がれていることを肌で感じることも出来、参加して良かったと改めて感じた次第です。そして、これからは先生や諸先輩の更なるご指導を仰ぎ、楽しみながらも納得のいく吟詠を目指して頑張っていきたいと思っています。その結果として、大会でご披露された高いレベルの詩吟に一步でも近づくことが出来れば、これ以上の喜びはありません。

初めての全国吟道大会

神田 櫻井慎一郎

六月十一日に全国吟道大会が川崎市教育文化会館で開かれた。全国から千四百名の参加だ。座席が指定されていたのですねに座れた、有難い。

私達千代田岳精会は合吟の三十六番目。発表の六番前に、下の階のロビーで整列を背の順にと指示されるがこれが中々上手くいかない、時間が

かかる。そして後ろがバラバラ、時間が迫って移動開始、これでまた列が乱れてしまう。舞台では前の人の背中しか見えなかったが吟じられた。

武道館合吟コンクール優勝吟の「越中覽古」を実際に見て聴けた、良かった。

昼に弁当が配られた、美味しかった。係の方に感謝いたします。午後の構成吟「日本漢詩の歴史を尋ねて」の吟は本当に上手だ。初めての吟道大会は良い吟を直接聴けて良かった。ただ百四十名の整列については、会場の外を回って舞台袖の入口に入るのなら、会場の外の正面入口の大階段で背の順に整列した方が効率的と思った。それが無理なら事前にごどこかで集まって整列と一回の合吟を行いたい。そうして千代田岳精会の良さを表わしたい。

全国吟道大会「慶祝 祖宗範 横山岳精 生誕一〇〇年・創流四〇周年 記念大会」に参加して

清水 森兼 康博

全国吟道大会に初めて参加させて頂きました。

午前は第一部の合吟で北海道から沖繩までの全国の会・支部・教場の皆様の合吟や幼少年吟詠を拝聴し、これほど多くの方が熱心にかつ楽しんでらっしゃることに驚き、また午後も式典後の会長吟詠から全員の大合吟まで大変充実した一日を経験させて頂きました。

参加するまではまる一日の大会は長いなと思っておりましたが、どの部に参加されている方の発

表も見応え・聴き応えがあり、特に第十二部の「日本の歴史を尋ねて」では詩吟とともに漢詩の歴史を学ぶことができ大変勉強になりました。詩吟を始めてから約十か月になりますが、まだまだ入口にも達していないと痛感いたしました。

まずは清水教場で諸先輩から一つ一つ教わりながら励んでいきたいと思えます。詩吟の奥深さに感動した一日となりました。有難うございました。

初伝・初雅号の感想

(前号からの続き)

初伝審査を受けて

生田 駒田 秀泉

新緑が芽生え、清々しい季節になりました。

吟を始めて早や三年がアツと言う間に過ぎました。初めての教室には雰囲気を味わいたく参加しましたが、その時まさか私まで指名されるとは思いませんでした。気持は高ぶり動揺しその場から逃げたくありませんでした。先輩に助けられ覚悟を決めて「中庸」を無我夢中で音程など無視し、タダ大きな声を張り上げるだけでした。先生から「声が大きく出て良いです」と批評を頂き、私は前向きに理解して誉められたと思入会しました。

先日、初伝の昇伝審査を受けました。厳粛の中で行われ、先生方の視線も熱く独特の雰囲気の中で私も「家兄に寄せて志を言う」を吟じました。普段の力が出せず声の上擦ってしまい高音がうま

く出せず納得のいかない吟になり、悔いが残りました。先生から具体的なアドバイスを戴きましたので参考にしたいと思えます。

三年過ぎまして、ようやく吟に関して少しずつ理解してきました。コンダクターの方も何とか弾けるようになりました。我が教室も後輩が増えてきましたので、やる気と自信がつくよう良い点を見つけて、誉めて家庭的な雰囲気の中で吟の勉強と一緒にしたいと思えます。授業終了後、吟仲間とお酒を酌み交わし雑談し合い楽しい会に盛り上げていきたいと思えます。

雅号「泉」を戴いて

みなとみらい分室長 田川 行泉

自信も実力もないままに初伝の審査を受審しました。予想通りの満足出来ない結果でしたが、幸いにも「泉」の雅号を戴く事になりました。実力と自覚が足りないのは今からの努力で追いかける以外ないと覚悟していますが、素質のないのは、果たして努力でカバーできるものでしょうか。諸先輩の方々のご指導、ご鞭撻を切望する次第であります。それに加えて今回の受審と前後して、担当することになりました「新陵教場みなとみらい分室」につきましては、新人の方が八名おられます。この方々が未永く吟を楽しんで頂き、今後の教場発展の「核」となってもらうことが最も大事な務めだと思っております。しかしながらこればかりは自分ひとりでは何ともなりません。

諸先輩をはじめ関係の皆様方の絶大なご指導と

ご支援を心から願ってやみません。どうぞよろしくお願い申し上げます。

初伝を戴いて

神楽坂 浪久 雅泉

神楽坂教場に主人と共に入会して三年になります。全国吟道大会、そして立派な千代田岳精会三十周年記念大会といろいろな催しに参加して、この会がこんなに大きく、沢山の会員の方がいらつしやる会なのだ改めて実感しました。

この四月の昇伝審査で初伝を戴く事が出来ました。そして何よりも雅号を戴けた事がとても嬉しく励みとなると思えます。入会して四回目の昇伝審査でした。緊張しながら吟じた毎回の審査でしたが、それぞれの先生方に注意して頂いた事、気を付ける事、良かった事等皆嬉しく記憶に残って居ります。

これからは、まずお腹の底からしっかり声を出す事を一番の課題として、主人と共に楽しみながら吟に励んで行きたいと思っております。有難うございました。

初めて雅号の許証を受けて

中野 矢崎 春泉

会社生活を卒業して早や七年、千代田岳精会に入会して四年が過ぎ、五年目となり「光陰矢のごとし」の諺を身をもって感じている昨今であります。先般初めての雅号「泉」の許証を受けて、詩

吟の勉強を始めてからやつと一合目（登山に例えて）位に立てたような気がしております。私事であり恐縮ですが、今年は古希となり年齢も節目を迎え、ある意味記念の年となりました。

入会してから四年の間、諸先生方、また諸先輩の真摯かつ親身なるご指導を賜り今日まで来られたことを改めて感謝申し上げます。

現在は大変長寿社会となり、まだまだ先の長い人生がありこれからも家族・身内を大切に思いながら今まで続けてきた職域を中心とした友人関係を更に継続していきたいと思えます。そしてパランスのとれた心身の健康を保持できるように、気楽に楽しく、適度な緊張をもって詩吟の勉強を続けたいと思えます。

諸先生方、並びに諸先輩方には今後ともよろしくご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成二十九年年度温習会

昨年は千代田創立三十周年大会に会挙げて取り組みましたが、今年はこれまで実施していたブロック毎の温習会へ戻すことはご承知の通りです。既に開催の東陽町ブロックの他、各ブロックの概要をお知らせします。

〔丸の内ブロック〕 丸の内支部、草加、日暮里、鎌倉、桜ヶ丘、清流

★開催日 十二月十四日（木）十二時～

★会場 明治安田生命新宿ビル、9F大会議室

★内容 (一) 教場合吟

(二) 会員吟詠

★その他 終了後、9F旧食堂で忘年会を兼ねた懇親会を行う。

〔東陽町ブロック〕 東陽町支部、銀座、神楽坂、調布、熊谷、鎌ヶ谷、市川

★開催日 八月九日（水）十三時～

★会場 明治安田生命新宿ビル、9F大会議室

★内容 (一) 教場合吟

(二) 会員吟詠 六十八名参加予定
(三) 剣詩舞

★その他 終了後、9F旧食堂で懇親会

十二月に年忘れ温習会を開催予定

〔中央ブロック〕 清水、中野、逗葉、神田、用賀、志茂、ハザマ支部、我孫子、新陵、生田、みなとみらい（分）

清水・神田・ハザマ支部教場開設二十周年記念

温習会として開催します。

★開催日 九月二十六日（火）十二時～

★会場 杉並公会堂

★内容 (一) 教場合吟

(二) 会員吟詠 九十八名参加予定
(三) 剣詩舞

★その他 終了後、公会堂内のグランサロンで祝賀会を開催します。

〔新宿ブロック〕 新宿支部、新宿第二、新宿第三、新宿第四

★開催日 十月二十四日（火）十三時～

★会場 明治安田生命新宿ビル、9F大会議室

★内容 (一) 教場合吟

(二) 会員独吟・連吟

★その他 終了後、9F旧食堂で懇親会

鹿児島吟行会



総本部事業部の企画で、未開拓県の一つである鹿児島吟行会に合せてプロジェクトチームが担当した公開講座を行うことは前号でもお知らせしていますが、八月参加者の募集を行ったところ、全国からの申し込みが二〇〇名を超える大きな団体旅行となる見通しです。

千代田からも八月現在四十五名の方々が参加申し込みをしております。

出発地も

A、羽田空港発着グループ

B、中部国際空港発着グループ

C、伊丹空港発着グループ

D、現地集合、解散グループ

と三か所からとなり、現地での合流となります。

初日一月二十八日（日）に城山観光ホテルで開催する公開講座の成功が吟行会の目指す大きな狙いです。山口隆風副会長が流統全体の公開講座責任者として取組んでおり、千代田でも鹿児島出身や勤務経験のある会員の皆さんに協力をお願いしております。鹿児島在住の知人縁者の方々いらっしゃいませんか。鹿児島への呼びかけをお願いします。本部広報の「龍吟」でも二〇七・二〇八号で鹿児島観光の紹介をしております、ご一読下さい。

第四十九回

全国吟剣詩舞道大会

武道館合吟コンクール

今年の武道館合吟コンクールは十一月五日(日)に行われます。参加申し込みは四十の団体がエントリーしています。その中で岳精流は総本部男子、多摩岳精会女子、六郷岳精会女子、千代田男子の四チームです。

全体で、都道府県総連という混成チームが十二あり、流派チームが二十八となっています。

発足時の一チーム五十五名が厳しくなり三十五名となったのは東日本大震災の発生した翌年の平成二十五年郡山大会でした。それでも参加団体は減少しており、流派連合が増えている現状があります。

「千代田男子」千代田男子は二年振りの出場を「平泉懐古」大槻磐溪作・二本で挑戦と決まり各教場から選抜の会員四十七名が入賞を目指して岩崎精慶顧問の指導で猛稽古を重ねています。

「総本部男子」「春を探る」戴益作を水一本で挑戦する練習は、まず佐藤精堂副幹事長の発声練習から始まります。腹から響く様な声を出す基本が出来ないメンバーもいましたが、口を正しく開け声が揃ってきました。七月十八日に出席回数で四十五名が指名されました。千代田からの参加者は欠席者や辞退者を除き指名されています。

姿勢、所作を含め厳しい指導があり、参加者は吟の基本を改めてしっかりと身につける機会と

して貴重な経験を重ねています。



平成三十年全国吟詠コンクール指定吟題

【幼少年の部】

九月十日

富士山

山行同志に示す

桂林荘雑詠諸生に示す(その一)

弘道館に梅花を賞す

早に白帝城を発す

菊花

江南の春

春夜

偶成

【青年・一般の部】

九月十三夜陣中の作

半夜

新涼書を読む

静夜思

折楊柳

夜受降城に上がって笛を吹く

母を奉じて嵐山に遊ぶ

青葉の笛

重ねて楓橋に泊す

雪梅

菅原 道真

石川 丈山

草場 佩川

廣瀬 淡窓

徳川 景山

李 白

白 居易

杜 牧

蘇 軾

朱 熹

上杉 謙信

良 寛

菊池 三溪

李 白

楊 巨源

李 益

頼 山陽

松口 月城

張 継

方 岳

師範及び奥伝以上昇伝審査

毎年、秋の文化の日に開催の首題の審査が今年も十一月三日(祭)に師範・準師範は筆記と面接、奥伝以上は吟技と論文で行われます。

今年の受審・受験対象者を千代田の会員名簿で拾ってみると、

伝位・昇段審査では

十段 一名

九段 一名

皆伝 十二名

八段 六名

七段 九名

奥伝 十六名

師範・準師範では

皆伝師範 二名

奥伝師範 六名

準師範 三十三名

となつています。年齢や体調、その他の理由で受審・受験しないと判断されている方も含まれた人数ですが、規定や年数など複雑で分かりにくいこともあり、機会が一年遅れとなる事は出ないよう教場でご確認下さい。

千代田会員の資格構成

創立三十年を昨年迎えた千代田の会員構成を総本部全国師範名簿及び千代田の会員名簿から集計しました。(七月一日現在)

◎伝位

総伝（精）	四名	一%
皆伝（龍）	八名	三%
奥伝（風）	三十三名	十%
中伝（山）	八十三名	二六%
初伝（泉）	八十名	二五%
無伝（二段以下）	百十名	三五%

◎師範

総伝師範	四名	一%
皆伝師範	六名	三%
奥伝師範	二十四名	八%
準師範	五十一名	十六%

（%は会員総数三一八対比）

となつております。分析評価いたしますと、土台の確りした三角形をなしており、健全な将来が期待できます。

随筆

オーロラとの出会い

丸の内支部 本田 親山

福祉の大学で教えているので、今年も春休みに北欧に勉強しに行つて来た。なぜ北欧かと言うと、いろいろな点で今の日本の経済社会福祉政策の先を北欧が歩いているからである。英仏独でさえも影響を受け、学んでいる。中心はスウェーデンで、社会保障のスウェーデン・モデルは、イギリス型とも独仏型とも異なる。

詳細は省くが、経済社会福祉政策を上手にコントロールしてきたことだ。スウェーデンにもバブルの崩壊はあった。政府資金を投入してうまく切

り抜けた。一九九二年からはエーデル改革といって、老人福祉の効率化や二〇〇二年からは段階的に年金改革にも取り組んでいる。日本がこれからやろうとしていることを、みんな先にやっているのである。地方への財源移転然り、子育て支援サービス然り、教育然り、労働政策然り。老人ホームばかり作らないで老人住宅にデイサービス・保育所・図書館・公民館を併設するような施設の動き、公立だけでなく民間といつても協同組合立が多いのだが、それへのしつかりした転換。リサイクルのデポジット制度もノーマライゼーションの都市計画もスウェーデンが先駆者なのである。

ところで、辺境に疲れたのでオーロラが見られるかなと期待して、北都キルナへ出かけた。ヨーロッパの国道は国境を越えて番号がついている。ルート一〇という道の駅の安ホテルに泊まって、夜の星空を眺めたが、北極圏なのにあまり立派なオーロラではない。雲と間違えるようなものだ。そこで、鉄道でノルウェーのナルビクへ行き、ロフオーテン諸島のハシユタへ泊った。オーロラが見たいんだと言うとホテルの人はあんなものを見てどうするんだ、物好きなというような顔をしたが、屋上の扉を開いて十一時までだよ、と念を押された。

港町だが街中煌々と電灯が点いている。これで見えるのかと心配した。ところが八時過ぎに、水平線からすると光の縄が伸びてきて頭上に達したかと思うと、さっとカーテンが下りて、ゆっくりと全天を舞い始めた。黄色・みどり・青、頭上を通り過ぎると、また次のオーロラが伸びてく

る。その上に透けて、北斗七星や北極星、カシオペアが見える。寒さも忘れて二時間半オーロラの舞を堪能した。



【新会員紹介】

◇神楽坂教場

黒田 宏氏（五月入会）

私は大病を患い暫く静養していた。社員約千人に成長した会社は、息子達が引き継いでくれこれから自分の楽しみをと思う矢先の病、まだまだと奮い立ち再起。以前から詩吟の腹式呼吸が心肺機能を高め、健康に良いと聞いていたので連絡して入会。発声に無理は出来ないが、まずはと教室に通い慣れてくると体も軽く感じ気力も湧いてきた。焦らず吟を楽しみ温習会にも出てみたい。

入江 幸氏（六月入会）

行く勇気が出ず、来月からと連絡して受け入れてもらった。新しい体験、発声法や歴史を知れる。声出しも慣れているのか、教室の皆から誉められ、先生も熱心に指導してくれ詩吟に興味湧き、家に帰っても練習をしています。まだ自信もないが温習会で習った「竹里館」に挑戦してみたい。

◇新陵教場

小野 孝史氏（五月入会）

一、趣味 ゴルフ、ドライブ、キャンプ
二、詩吟への抱負 抱負というほど大それたものではないが、傍で聴いている家内にうる

さいと思われぬ程度に吟じられるようにはなりたい。

三、入会の動機 暇になったのを機に文化的素養を高めたいと思った。

◇新陵教場みなどみらい分室

樫村 郁子さん（五月入会）

私は歌が好き、聞くのも歌うのも。しかし詩吟は遠い存在であった。ひよんな事から近くに来た先生方の朗々たる響きに感銘。はたして、伝統ある詩吟を私が出来るのだろうか？今そんな自問自答の中にいる私である。

川島 明氏（五月入会）

一、趣味 ゴルフ（球歴五十年）

二、詩吟への抱負 歳を重ね腹から声を出す、健康に良いと妻の勧めから

三、入会の動機 同じマンション内で近い、三十年前に習った同じ流派の指導者鈴木精成氏が素晴らしい。

白井 三枝子さん（五月入会）

特に趣味もなく、友人に誘われてカラオケに行きました。ところが声が出ず歌うことが出来ません。シヨックでした。何か声を出すものがないかと思案しました。ラジオ体操で一緒に一緒にいる田川行泉さんが活き活きと詩吟を楽しんでいることを知り、入会させていただきました。

園山 千代子さん（五月入会）

特に趣味はありませんが仲間とカラオケに行ったりするのは好きです。詩吟を通じて腹式呼吸により、良い発声法を身に付けて詩吟が趣味と言えるようになりたいと思います。ラジオ体操

操の良き先輩から、みなとみらい分室開設とお誘いを受けて入会しました。宜しくお願います。

西多 英治氏（五月入会）

一、趣味 朝のウォーキングとラジオ体操、下手なゴルフとスポーツジムでの軽い運動

二、詩吟への抱負 家族及び社会の後年代の皆様に経済的、精神的介護の負担を軽減、依存しない体力・気力の維持

三、入会の動機 田川行泉分室長のお誘いで入会しました。

宮崎 洋男氏（五月入会）

一、趣味 ゴルフ、高校野球観戦

二、詩吟への抱負 音痴ですが、声量でカバーできるレベルへ

三、入会の動機 居住するマンション掲示板に詩吟教室の案内を見たとき、亡くなった母が趣味でやっていたことを思い出し参加、声を出すのは良いことだ。

宮本 晃三氏（五月入会）

音楽好きな者です。詩吟に興味を持っていました。田川行泉分室長さんの熱心さにうたれました。作詞者の心に触れ、自分の魂を吟じました。音楽好きな私、詩吟の音楽を学びたいと思っています。皆様どうぞよろしくお願います。

安田 恵美子さん（五月入会）

この度、ご縁がありまして新陵教場みなとみらい分室に入会させていただきました安田と申します。日本、中国の先人達の素晴らしい漢詩

の奥深さを詩吟で学びたいと思っております。先生、諸先輩のご指導をよろしくお願申し上げます。

計報

◆加納 隆山氏（前新宿支部教場長）

七月十六日逝去されました。享年八十歳
新宿教場が支部昇格に際し教場長としてまた、新宿ブロックの運営にも多大な功績を残されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

◆大木 栄山氏（清水教場）

七月二十日逝去されました。享年八十九歳
謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記

今年には異常な天候が続きます。梅雨明け頃から過去に経験のない集中豪雨が全国で局地的に降り、大水害が発生している。

これほどの雨量は地球の温暖化により、海水の温度が上がったことが理由という。南極では巨大な氷山が流出した。水の惑星である地球は、これまで何度も寒暖を繰り返しているが、人類がやることで効果があるかの判断は難しいが、認識して温暖化防止に努力することに意味があるだろう。

今年の温習会は、全員が独吟で日頃の研鑽を披露する本来の姿として開催されます。

（八田 仁風）

